

こごみ日和

京都発！ごみ減量情報誌

vol.101



命の源 地球のために、
今できること！

歌手 白井 貴子さん

大図解！

「京都のごみ みんなのごみ」

なごみ日和

「自然への愛を感じたハイキング」

もっぺん物語 「BOOTSHELL」



京都市ごみ減量推進会議

命の源 地球のために、 今できること！

歌手 白井貴子さん

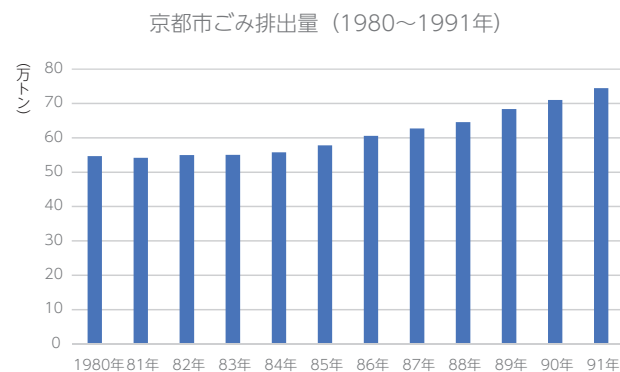
7月のある日の朝、その人は軽やかな足取りで、部屋に入って来た。Tシャツにジーンズをまとい、笑顔を浮かべて風のように…。

ご登場いただいたのは白井貴子さん。「CHANCE」などのヒット曲を飛ばし、「ロックの女王」とも呼ばれ、ライブでは、総立ちの大観客の前、ミニスカート姿で歌い踊る白井さんの姿をご記憶の方もあろう。1984年ごろのことだ。



バブル経済の歪みのなかで

1980年代、大量生産大量消費は定着し、日本はいわゆるバブル経済期へ。日本企業がアメリカの会社を買収するなど世界でも屈指の経済大国に押しあがった。原宿にオープンしたディスコ「マハラジャ」で、ボディコンスタイルの女性が踊る場面はバブル期の象徴として挙げられる。高度経済成長期、ブランド志向の高まりもあり、消費も活発だった。当然だがごみの排出量も右肩上がりに。参考までに京都市のごみ排出量を見ておこう。



京都市のごみ量は、1992年(平成4) 750,341トン。その後、積極的に減量政策を展開し、2023年(令和5年) 371,957トンに。2030年(令和12年) 37万トンの目標達成は近い。

白井さんの澄んだ歌声は魅力的だ。そして自らの閃きや感情を詩作し旋律も生み出す、シンガーソングライターだ。ギターばかりかピアノの技量も卓越している。バブル経済時代の白井さん…。まるでトレンド商品のように過密スケジュールに追い立てられる日々「このままでは…」と、疑問を抱くようになったという。

野生のマーガレットのように生きたい

1988年、白井さんは飛び立つ。ロンドンへと。そこは、日本にはない光景が広がっていた。物を大切に、長く使い続ける暮らし…。歴史の香り漂う街並み、店先には古着や骨董が売られて、スーパーにはむき出しのままのオーガニック野菜が並んでいた。白井さんはその頃一輪の花に心を動かされ、『野生のマーガレット』という曲を歌っている。

※一部抜粋
機械のように仕事に追われた日々/
飛び出してここまで来てしまったよ/(中略)
生きてる造花にならないで/(中略)
知らず知らずなくしていた/
喜びや悲しみを体で感じたくて/
だから野生のマーガレット/
あなたのように生きたかった/
何も言わず理想にむかって走ってる/

3Rじゃない、10Rを基本にした暮らし

1990年日本に帰国後、白井さんは海にも近い素晴らしい森に出会い、自分の未来に向けての「アトリエ」として購入。シンプルなエコライフを求めるなかで、取り入れたのが「キエーロ」だ。生ごみ処理器なのだが、そこに入れたごみは、微生物の働きで消えてしまう。商品名通りに。「できた土の持って行き先がない」「虫がわくし臭いがいや」と、困り果てる例も少なくないコンポスト。白井さんは言う「生ごみは大地のごはん、細かく切って土に戻しましょうよ」と。

環境省3R推進マイスターとして委嘱を受けている白井

さんはさりげなく「私のくらしは10R」と、口にする。えっ、10R?と尋ねてみたら、回答をいただいた。

- ・ Reduce (減量)
- ・ Reuse (再利用)
- ・ Recycle (再活用)
- ・ Refuse (拒否する)
- ・ Repair (修理)
- ・ Remember (記憶)
- ・ Record (記録)
- ・ Reform (作り替える)
- ・ Recommend (推薦する)
- ・ Realize (気づく)

Rを基本にしたエコな暮らしが見えてきた。多角的に捉え、行動することがエコライフを徹底させる…。ハッと気付かされた。

いのちへの思いが、共感を集めて

多岐にわたる白井さんの活動。地球や自然そして人。生きとし生けるものへの慈しみが基本に流れている。2008年アルバム「地球~HOSHI~」、2010年植樹祭のテーマソング「森へ行こう!」、2014年愛知と岡山で開催されたESD世界会議のメッセージソング「僕らは大きな世界の一粒の命」、小学校の校歌も手がけている。

その多くが自身のライフスタイルや姿勢が創作の源。さらに自身のキャンプ場「マーガレットグラウンド」をこどもたちの自然学習会などに開放するなど、社会貢献にも前向きだ。各方面から引きも切らない要請は、白井さんの活動が社会的に評価されていることの証でもあろう。



松本信夫さん考案の「キエーロ」。波板片流れ式の屋根が特徴。東日本大震災の時、陸前高田にボランティアとして駆けつけ、地域の方と廃材を用いて共同で作ったオリジナル。TAKATAの文字とイラストは白井さんによる。長年、陸前高田にある旅館で使われていたもので、第2回「母TSUNAGU未来」展(下記参照)では実物が展示される。

白井貴子さんプロフィール 神奈川県生まれ。1981年デビュー。女性ポップ・ロックシンガーの先駆的存在に。音楽活動を続けながら、自然環境との共生と保全活動に力を注いでいる。神奈川県環境大使、環境省3R推進マイスターなど多数務める。

祖母や母から授かった時のバトンの大切さ

白井さんはいく、60歳を越えて今「なんでも思ったことをやろう」と。2019年6月「母TSUNAGU未来」展を開催(会場:京都佛立ミュージアム/上京区)。副題は(祖母、母、白井貴子 三世代が奏でる愛のメッセージ)。家族の身を守った祖母の針箱。母ハンドメイドの80年代ロックの女王までを支えたミニスカートの衣装。白井さんの元に残された沢山の針箱を前に「手仕事の大切さ」を伝えるため個展を思いついたという。2回目の個展では、母の愛情溢れる産着や子供時代の服、手放せない品々を一挙に展示。

2020年からは「未来へ咲かそう! FLOWER POWER」を活動テーマに掲げ、ライブなど多岐にわたる活動を展開。11月1日(金)クールジャパンパーク大阪WWホールでライブが開催される。

2024年の今、私たちの周りには、さまざまな地球環境問題が浮上する。このままでいいの?何か自分にできることは?と首を傾げた時、白井さんの活動を見つめたい。そこには一つの道標が見えてくる…。地球に生きる命たちへの慈しみ、人の命ばかりか、数々の生物たちへの思いを大切に、自分らしいメッセージを発信し続ける白井さん。これからの動きに目が離せない。



左は白井さんが今、掲げている「FLOWER POWER」の象徴であるロゴマーク。Tシャツやトートバッグ等にも用いられている。デザインは竹内オサム氏。ライブ会場などで購入も可。

母TSUNAGU未来展2 白井貴子: Rock Queenの宝物

開催期間: 2024年10月5日(土)~2024年11月25日(月)
場所: 京都佛立ミュージアム 〒602-8377 京都府京都市上京区御前通一条上る
開館: 平日10時~16時 土日祝10時~17時 休館: 月曜日※11月25日(月)は開館
入場料: 無料(有料イベントもあり)
白井貴子の誕生からメジャーデビュー、「ロックの女王」と呼ばれるまでの軌跡をたどり、傍で支えてきた母の手仕事による衣服や衣装を展示。また、30年近くにわたり活動してきた環境問題、社会課題への取組紹介など。期間中、ミニライブやゲストを招いての対談、「バクテリア DE キエーロ」ワークショップ等も開催予定。

◆イベント問い合わせ
京都佛立ミュージアム
TEL: 075-288-3344

◆白井貴子公式HP
<https://takako-shirai.jp/>



森田 知都子 (2024年7月8日取材)



KBS 京都 アナウンサー
うみひら なごみ
海平 和

● ● 第42回「自然への愛を感じたハイキング」 ● ●

この夏も驚くほど暑かったですね。そんな夏真っ盛りの7月末、鞍馬寺から貴船神社までの道のりを20年ぶりに歩いてきました。

鞍馬山をこえる登山道、距離にするとおよそ1.5キロ、ゆっくり2時間半ほどかけての散策。パワースポットと言われるだけあり、京都市内でありながら神秘的ともいえる凜と清々しい空気に触れることができました。創建は770

年にまでさかのぼる鞍馬寺。山全体が尊天の御神体と考えられているため、山の清浄さ、豊かな自然を守るために「愛山費」を支払います。この言葉の重み、愛情をこの日の散策で感じるようになりました。安全を確保した上で、参道は地道のまま、また倒木もできる限りそのまま自然の循環を妨げないようにされていることも、自然の偉大さ、ありがたさを目の当たりにすることになりました。

本殿前の宇宙のエネルギーを感じられるとされる六芒星^{ろくぼうせい}。鞍馬山の動植物について知ることができる自然博物苑。牛若丸（源義経）が修行したと伝わる木の根道。そして貴船神社へ。

貴船川のせせらぎをききながら歩く道は、とても心地よく、ここで感じられる“涼”は、まさに自然がくれた贈り物。自然を愛し、守っていくことが、私たちの未来を守っていくことにつながる。それを教えてくれるのも自然でした。思い返せば親に連れられて家族一緒に歩いた以来のコース。次は秋の紅葉、春の新緑の季節などに息子をつれて、そんな思いを次の世代に育んでいきたいと感じた、夏のハイキングでした。



鞍馬寺・本殿金堂前の金剛床に立って、宇宙のエネルギーを感じています。
※本殿は2024年秋頃まで改修中

海平 和：京都市出身、2010年KBS京都入社。テレビ「京都経済テラス キュント!」、ラジオ「矢野勝也のま〜ぶる!」などに出演。

人と物と。織りなす「もっぺん」物語



第 29 回

BOOTSHELL

寺町京極六角を下がったテナントビル2階に、輸入靴専門店と同居するかたちで「BOOTSHELL」（ブーツベル）がある。

店内は、販売用の靴と修理済みの靴が混在し靴箱のよう。

オーナーである興津大介^{おきつ}さんの経歴は興味深い。大学卒業後アパレルメーカーに勤務、その後ハーレーのバイク用品販売に転職、バイク乗りのブーツ修理をするなど靴修理の技術を独学で学び、靴修理の面白さを知る。四条河原町マルイに靴修理店のオープン話を聞きスタッフとして入社、腕を磨きその店舗を買い取る形で独立するが、マルイの閉店に伴い近隣ビルに移転、2017年3月「BOOTSHELL」の誕生である。

しかし、奇しくもコロナ禍等の影響で経営困難となり、2020年に現在の店舗に再移転する。これまでより店が狭くお客様は減ったが、顧客が来店してくれるので結果として顧客満足度も高くなったと興津さんは話す。



店内の様子

心掛けていることは、依頼者の要望をしっかりと聞く、仕上がりのイメージを共有する。難しい修理はリスクも伝えコミュニケーションを大切にすることで、後のトラブル回避にも繋がっている。

店名の「BOOTSHELL」のBELLは、美しいという意味もあり靴をいつも綺麗に、毎日同じ靴を履かず靴を休ませることが大事にする秘訣であると。

今後の抱負は、「職人だけでなく経営者としても飛躍したい。夢は自分の店を持つことだったが、今はこれからが始まりだと感じている、自分も成長しお客も育てていく」と胸を張った。



オーナーの興津大介さん

▶ BOOTSHELL

〒604-8061 京都市中京区寺町通六角下る式部町245 MPビル 2F
TEL：075-744-0523 営業時間：12:00～20:00 定休日：木曜日

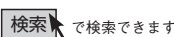
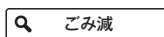


HP



instagram

安田 勇次（2024年7月17日取材）



植物油インキで印刷しています。



この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ!